

発行者 NPO法人 南風原平和ガイドの会
沖縄県南風原町字喜屋武257番地
南風原町立南風原文化センター内
電話・FAX/ 098-889-2533

Mail : haebaru.gaidonokai@beetle.ocn.ne.jp
ブログ : <http://haebaruheiwagaidonokai.ti-da.net/>

第52号 南風原平和ガイドちゅ~しん

兼城シマ歩き 私の新発見記

兼城のシマ歩きをすると、実際に面白い。察度王が誕生した1350年代頃、玉城王末子の大城按子、真武の二男、稻福大主が兼城ムラの村建てをしたと云う。世はまさに各地の按司達の群雄割拠の時代。30年後には内嶺城が誕生する(内嶺按子はウッチ、ウツチ鍛冶を起こして、農具を大量に生産し、領民に分け与え、人望を集めたとある)。内嶺城を中心に兼城ムラ統合の広がりが見られる。兼城クエナ(古謡)に、聞こえ兼城、豊む兼城、兼城按司ぬ好みあとて、拾尋の御えん、八尋の御

えん立てて、御万人集まいて、國ぬ人集めてい飲んでいん減らん、酌でん減らん・・・とグスク繁栄の古謡である。さて新発見とは、内嶺城にも城主世継ぎの到来、第二尚王統を築いた尚円金丸は兼城按子の長女真呂勢を嫁にして王妃となるが政変ありて、西原内間御殿に引越すが、王妃に内間殿内の三男として出生したのが尚公子(後に内嶺城の城主)、現在は宗家大屋宅に大きく位牌と勾玉が祀られ継承されている。世は移り、尚真王の黄金期を迎える、中央集権体になり四男の尚龍徳が内嶺城の城主となるも、



連載「閃光の中で」

沖縄陸軍病院の証言

私の沖縄戦

衛生兵 樋高 嘉吉

いよいよその日が来たが、指揮官である平川見習士官は海上のことはなにも知らずに平気であった。私は鹿児島の港に着くまでずっと、海上を見守っていた。出航のときは六隻であったが、鹿児島の港に着いたのは二隻であった。ほかの船はどうなったか不思議でならない。自分の仕事も無事におえて、預かった三人の子供のことを実家に話し、戦争が終るまでは預かってほしいとお願いした。親も理解してくれた。

球18803部隊は熊本陸軍病院で編成された部隊で、機材なども不備で診療に不自由を来していた。軍命令で開業医所有のレントゲン撮影機などの提供を相談し、調達した。業務責任者は嶋少尉であった。この医療機械は、県立第二中学校に保管してあった

が、10・10空襲で焼失した。私の専門的な業務はほとんどなく、玉城薬剤中尉の元でお世話になることになった。

昭和20年の5月20日と思う。南風原の壕の東側が炊事場になっていた。この壕の入口から経理部、衛生材料料の者も出入りしていた。ここでの炊事課長は吉田曹長であった。この炊事場に直撃弾が命中し吉田曹長は即死、石川キヨさんもこのときに負傷した。日がたつにつれて高熱が出て、苦しんでいたので、無断で氷枕を貸出したこともあった。

5月25日に柳澤中尉の命令で、夕方、学生を出すから衛生材料を山城の元の石部隊の壕に運搬するようにと言われた。この時は石川キヨさんも一緒であった。26日の夜明けに金城珍友伍長が石部隊の壕の案内に出向いて来て下さった。静かで戦争が終わったようであった。やれやれと壕に着いたとたんに戦闘部隊によってその壕から追い出された。部落にいたところ伝令が来て山城の壕に案内された。学生は本部の壕

に衛生材料を降ろし、側近の先生と米須に向かった。これが学生との最後のわかれであった。

南風原で頑張っていた玉城中尉以下薬剤関係者が本部の壕に移動してきた。玉城中尉の指揮で衛生材料を集めのに苦労した。6月10日に仲本見習士官が持っていた青酸カリを頂戴した。

6月18日に山城の本部の壕に艦砲弾が命中した。壕に向かって左側が炊事場であった。炊事場で働く軍属と、兵3名も戦死した。その時に病院長も負傷し、ガス壊疽症のために佐藤少佐、西平中尉の二人で下肢切断手術をしたが、間もなく帰らぬ人となった。熊本の吉永春蔵軍曹が先頭にたち、数名の衛生兵によって毛布で包み、壕を出て北右側の畑の土手の岩石を目標にして埋葬した。戦後、吉永軍曹は生存していたので何回か会って、いろいろ話を聞いた。中村軍医も開業していると聞いた。

「閃光の中で」

沖縄陸軍病院の証言一より転載

★今回7月22日(日)に行われた【兼城のシマ歩き】にご参加された方々のアンケートから構成しました。

今回の兼城シマ歩きは以前に参加したという知人の紹介で知り参加してみました。初めてでしたが、楽しく見学できました。特に、内嶺グスク(うちんみグスク)周辺の歴史の話が興味深く聞けました。ガイドの赤嶺敏昭さん、赤嶺勉さんの話が上手で、兼城の歴史を詳しく細やかに説明してくれて分かりやすかったです。1年に1回程度の兼城シマ歩きのことですが、2カ月に1回位はあってほしいです。

西原町 男性

今回の兼城シマ歩きは沖縄タイムスの新聞で知りました。ガイドの赤嶺勉さんが兼城の発祥や内嶺グスクの歴史をパネルを用意して詳しく説明してくれて非常に分かりやすかったです。また来たいので2カ月に1回はあってほしいです。

浦添市 男性

参加者コメント

8月・9月のシマ歩き予告

★津嘉山のシマ歩き
(Bコース)

8月12日(日)

10時~

★大名のシマ歩き

8月19日(日)

10時~

★東新川のシマ歩き

9月23日(日)

10時~